

エンリッチをお使いの先生からのご質問に  
ブリティッシュ・カウンシルがお答えします。

Q.1 エンリッチを使った授業では、生徒が「授業が楽しい」と言っています。「生徒が楽しい」と感じる理由はどこにあるのでしょうか？

A.1 エンリッチには、生徒の内因的なモチベーションを高める工夫を多く取り入れています。生徒一人ひとりが毎時間の授業で小さな「成功体験」を重ね、それが「達成感」へと導かれるようなしかけです。成功体験を高めるにはちょっと難しい、しかも達成可能な(ちょうどいい)「難易度」が必要です。各ユニットで、コミュニケーション活動を繰り返し、お互いや社会・世界のことを学びながら、英語を練習する・使う機会が豊富にあり、自分の上達を感じることができるためです。

生徒が「英語ができない」「言語活動が楽しくない」と感じる理由は様々です。例えば、「アイデアが浮かばない」「語いや表現がわからない」「(エッセイなどの)形式を知らない」「題材が身近ではない」などです。エンリッチには、そういった様々な理由に配慮する支援(足場かけ)が組み込まれています。

<エンリッチ I, Unit7の場合>

Unit Activityでは、将来住みたい場所についてエッセイを書きます。準備がないとアイデアが浮かばない生徒や、英語でエッセイをどう書いたらいいかわからない生徒もいるかもしれません。また、このテーマに関する語彙や表現が不十分な生徒もいるでしょう。このタスクを完了させるために、以下のような言語活動からの逆向き設計により、生徒を支援しています。

<p>考え・意見を知る</p>	<p>Listening 1: 田舎に住むことの利点と不利な点について話す。(p165) Reading 1: 様々な場所に住む人の話や住む理由について読む。(p102-103) Listening 2: 日本に移住し、田舎で暮らすことを選んだ人の話を聞く。(p165) Reading 2: 将来都市で暮らしたいと考えている若者の意見を読む。(p109)</p>
<p>Essay-writing エッセイのモデルを提示</p>	<p>2種類のエッセイのモデルを示した。生徒はどんな内容を考えたらいいいのか、どんな構成にすればいいのかについて具体例をもとに理解できる。 (Reading 2 p109、Unit Activity p110) ユニットのタスクはエッセイの構成を明確に示している。(p110)</p>
<p>Vocabulary</p>	<p>Warm-up (p100)では、異なる場所に住む人々の肯定的な意見と否定的な意見を示し、話す際に役立つ語彙を提供している。 •Built-up, busy, crowded, stressful, convenient •Peace and quiet, part of the community, relaxing, nothing to do  Listening 1(p165) •the scenery is so beautiful. •there are lots of good places for hiking. •there aren't any good shops or cafes and there's nothing to do on weekends. •I want to live somewhere with theaters and art galleries. etc</p>

また、エンリッチでは、ペアでのディスカッションやプレゼンの機会を用意すること以外に、重要事項として以下の点に配慮しています。

- 学習の目標が明確であること。そうすれば生徒はユニットの最後に何がねらいとされているかがわかります。
- スピーキングタスクもライティングタスクも「達成可能」なレベルを意識して作成しています(CEFRに配慮)。生徒の言語レベルを超えたものを話し合うような質問は設定していません。例えば「世界平和のために何をするか」というような設問はありません。「世界平和」は教科書によく出てくるテーマですが、実は言語レベル的には高度で、高校生レベルの英語力で自分の意見を産出する活動はあまり現実的ではないのです。
- スピーキング活動では、インフォメーションギャップやオピニオン・ギャップがあることを重視しています。例えば、Unit 5(p70)は、最近読んだり聞いたりした話が話題の対話です。p80では実生活で経験したことを話します。こういったことは通常一人ひとり異なる経験をしていますので、話をしている「ああ、そうなんだ！」「そんなことがあるんだ！」という新しい視点を得ることができ、新鮮で学びがあります。
- リーディングとリスニング活動は、生徒がテキスト(英文)から新しい情報や考えを学ぶことを大事にしています。読んだり聞いたりする前に、生徒の興味関心を高めるタスク(設問)を設定しています。

例えば、Unit 6 (p85)のPersonal Reactionでは、次のページのテキストを読む前に、ネルソン・マンデラについてどんな情報を知りたいかを考えさせます。

その他、下記のような配慮をしています。

- 有意味な、必然性のあるコミュニケーション活動の提供。
- 言語活動は、行うたびに発見があるような構成にしています。単に「語学の練習だから繰り返すは必要」というような表層的な見方ではなく、その活動自体に意味があるようにしています。
- 足場掛けの設定。
- 認知的にも意欲的にもエンゲージメント(積極的な関与)を高める工夫。

例えば、思考を活発にさせる質問、自分の生活や経験との関連付け、友達と意見を交換して、新たなことを発見する、ふりかえる、評価する、話し合うことを促進するような工夫をしています。

適度な難易度を設定し、全員が自信を無くさず(あきらめず)、タスクを達成し、生徒たちの成功体験を積み重ねるようにしています。

言語の学習であるため「言語レベル」に配慮しています。受信言語あるいは発信言語であるかによっても、レベルを多少調節しています。

## ● オーセンティックなテキストタイプ

テキストタイプ(ジャンル)が明確であることは、目的・場面・状況に配慮したテキストであるということです。書き言葉と話し言葉は異なりますし、メール文でも友達に出す時と先生に出す時では異なります。実際に目にする、使えるような場面が想像できるため、英語が実生活で使える力(ライフスキル)としてのモチベーションにつながります。ここでも学習者の言語レベルに配慮したテキストタイプを採用しています。

### ◎異なるテキストタイプを採用している理由

エンリッチでは、対象や目的によって使う単語や表現を変えています。例えば、日本語で保護者宛ての文書を書く時と友人へのLINEメッセージとでは、書き出しは使い分けますが、それは英語でも同じことです。英語はライフスキルであり将来への備えとして、状況や場面に応じて適切な表現を使う力を生徒につけてあげたいと願っています。そのためエンリッチでは様々な場面やテキストタイプ(ジャンル)を含め、個人レベルのコミュニケーション、社会的なこと、学術的なことなど多様な領域となるよう配慮しました。

例えば、Listening 1の会話は話し言葉で、日常生活における実践的な運用能力として、誘いを丁寧に断る表現(エンリッチ I Unit 3, Listening 1, p41)、共感して聞くこと(エンリッチ II, Unit 8, Listening 1, p115)を扱いました。Listening 2はよりフォーマルでアカデミックな話題(エンリッチ I, Unit 4, Listening 2)で、ディスカッション(エンリッチ II, Unit 10, Listening 2)やディベート(エンリッチ II, Unit 2, Listening 2)もあります。Readingでも同じようなバランスで、生徒が対象や目的、テキストタイプに応じて適切な表現や文法に触れる機会を設定しています。例えば、分詞構文を話す時に使うと非常に不自然ですが、逆に文学作品や百科事典には頻繁に出てきます。ネルソン・マンデラ(エンリッチ I, Unit 6, Reading 1, p86)の記述を百科事典の形で提示していますが、そこでは文法が自然な形で使われています。このような機会に触れることで、生徒はより複雑な文法や表現の使用場面や目的を明確に理解でき、自分で考え、選択できるようになります。そしてこういったことの積み重ねが、生徒の表現力を高めるはずです。

## ● 自律した学習者を育てる

### ◎メタ認知ストラテジーの活用

生徒は、自分の学習をどう進めていいかをコントロールする力をつける必要があります。こういった力をメタ認知ストラテジーといい、具体的には取り組む前の準備(計画)、問題解決、モニタリング(自己評価)などです。教科書にメタ認知ストラテジーを使用したアクティビティを含めることで、生徒の主体性や自律性を育てることができます。エンリッチは、生徒が自律した学習者になるための支

援に配慮した教科書です。一例として、エンリッチ I のUnit 7、p110-111では、ライティングの過程を段階的に示すことで、教師が生徒のメタ認知ストラテジーを高めることを支援できるようにしています。

**Q.2 エンリッチのComprehensionは、本文全体がわかっていないとできないように見えます。これは、どういう力をつけることを意図しているのでしょうか。また、スキミングやスキミングとはどう関係がありますか。**

**A.2** 伝統的なComprehensionは、通常本文の語彙や文法を繰り返す(選び出す)というものが多いです。

Example Text : In late fall and early winter, Italian farmers use truffle hogs to help them dig up this regional speciality.

Question: What do Italian farmers use in late fall and early winter?

Answer: They use truffle hogs.

この例では、文を本当に理解していなくても、質問に対して正解できます。

これをエンリッチ風にするなら、以下のようになります。

Question: What happens in Italy between November and January?

Answer:

- a. Farmers use pigs to help them find special mushrooms.
- b. Farmers are late because they eat regional specialities.
- c. Farmers dig up regional specialities with a special shovel.

aが正解ですが、この問題では、”hog”が豚の一種であり、”truffles”がキノコの一種で地域的な名産品として有名であることを知っていれば正解できます。(WikipediaのTruffle hogの項目を一部改訂)

エンリッチでは、本当に生徒が理解できたか、読解したかを確かめる質問をしています。質問やテキストに異なる単語を使ったり、p88のように表にしたがって情報を整理させたり、p32のListening 2のように異なるフォーマットに情報を変換(インフォメーション・トランスファー)して解答させたりしています。

Reflection Questionについても、個別の単語や文に注目させるのではなく、テキスト全体の理解に注目がいくように設定しています。(例 Reflection Question on p32)

スキミングやスキミングは、時間がないときやテキストに知らない単語がたくさんあるときに使う「テスト対策」の戦略です。実生活で役立つかもしれませんが、それだけでは語彙の増強やよい読み手となるために必要な「スラスラ」読む力を育てることはできません。エンリッチでも、スキミングやスキミングを扱いつつも、そういった訓練ばかりに時間をとるのではなく、本当の読解力(≠意味が分からなくても解答できる)を高めることを意識しています。

実生活で文章を読む際には、何のために読むかという目的があるもので、常に情報の最初から最後までを読むわけではありません。エンリッチのリーディングでは、目的が異なる様々なタスクを設定しています。例えば、要点をスキミングする(Unit 4, First Reading, Unit 6, First Reading)、要約する(Unit 1, Further Reading, Unit4, Further Reading))などです。

生徒の真の読解力を伸ばすためには、スキミングやスキミングの力を含む、目的に応じた読み方ができるように幅広い指導が必要です。例えば、細部に注意を払い丁寧に読む、書き手の意図を推測する、事実と意見を見分けるなどです。このようなタスクはエンリッチ全体に含まれています。

最後に、「流暢さ(スラスラ読む力)」は読む力の中で重要なものです。共通テストでは1分間あたり110ワード以上でのスピードが求められます。エンリッチのReading 2は、Reading 1と比べて、比較的新出語句や文法が少なくなるように調節されています。そのためReading 2は、流暢さを高める指導に使っていただけることも意図しています。

### Q.3 エンリッチにしてから授業準備の負担が大幅に減ったと感じています。ブリティッシュ・カウンシル独自の狙いが背景にあるのでしょうか。

A.3 まさにその通りです。このことは、私たちブリティッシュ・カウンシルが東京書籍と成し遂げたかったことの一つです。高校の先生方とお話して、これまでの教科書で言語活動をしようとする時には、教科書を「再教材化」するために、膨大な時間を費やしていることについて、たくさんお話をうかがってきました。教科書を題材にして、スピーキングとリーディングが統合された教材(ワークシート)を作成するために、先生方は多大な努力をする、あるいは、オーセンティックな教材になるように大変苦心されていました。言語活動のために多大な準備時間が必要なのであれば、限られた先生しか実施できません。言語活動を計画する際には、生徒が取り上げようとするテーマについて十分な背景知識をもっているか、やり取りや発表の活動で必要となる表現ができるCEFRレベルと生徒のCEFRレベルが合致しているかなどのバランスをとることが必要です(詳細は参考文献を参照ください)。言語活動の教材作成についての専門的な情報が十分に共有されていないこともあります。私たちブリティッシュ・カウンシルは、そういった先生方の多大な負担を軽減したいと強く思ってきました。「再教材化」する時間が節約でき、質の良い教材が提供されれば、先生方は純粋に指導に集中できます。

#### Q.4 エンリッチにしてから授業準備の負担が大幅に減った一方、模擬試験の学年偏差値も過去最高をマークしました。著しく効果を上げる秘訣が教科書の中に何かあるのでしょうか。

A.4 認知科学や学習科学では、一度学んだことについて、間をおいて、何度も、異なる形で触れることが定着(長期記憶)につながると言われています。エンリッチでは一つのトピックを中心に構成されたユニットの中で、読む、聞く、書く、話すことを通して、生徒が語彙や文法に繰り返し触れ(リサイクル)、復習するように構成されています。Unit Activityに取り組む頃には、何を学んでいるかを真に理解し、達成感を得られるように構成しています。ですから、自信、モチベーション、そしてテストの点数が向上していくことが期待できます。

学力が向上するために必要なのは、単に何時間勉強したとか、テスト対策をしたとか、そのようなことだけではなく、言語能力を向上させることを通して、テストの点数が上がるための最善の方法を授業や学習に組み入れる、ということです。これらを重視しています。

#### Q.5 エンリッチの言語活動はとても理にかなっていると感じています。どのように考えて設計されているのでしょうか。

A.5 エンリッチは4技能を統合したものです。読んだり聞いたりしたことを、書いたり話したりします。Unit Activityが満足にできるようになるために、どんな語彙や表現が必要かを考え、それが組み込まれるように考えた、言語活動(英語力向上)のための教科書です。

私たちブリティッシュ・カウンシルは、言語が上達するためには、「言語を使うこと」が重要だと考えていますので、エンリッチは言語をアウトプットする機会を豊富に設定しています。生徒にとっては達成可能でありつつ、テキストやタスクは適度なむずかしさ(チャレンジ=易しすぎず、難しすぎず)があるように注意深く調整しました。この点は、東京外国語大学の編集協力者の先生によるCEFR-Jレベルの調査でも確認されています。

質のよいアウトプット活動がないと、理解は定着しませんし、言語は使えるようにはなりません。エンリッチは読解力も、表現力も、言語活動も、入試も、どれも達成できる言語力をつけることをねらって編集した教科書です。

#### 参考文献

- 尾関直子(2019)「主体的・対話的で深い学び」を実現するメタ認知ストラテジー『英語教育 2019年6月号』大修館書店  
サラ・マーサー、ゾルタン・ドルニエイ著、鈴木章能、和田玲訳(2022)『外国語学習者エンゲージメント 主体的学びを引き出す英語授業』アルク出版編集部  
ゾルタン・ドルニエイ著、米山朝二、関昭典翻訳(2005)『動機づけを高める英語指導ストラテジー35』大修館書店。  
North, B., Ortega, A., & Sheehan, S. (2015). A Core Inventory for General English. British Council/EAQUALS (European Association for Quality Language Services) <https://www.teachingenglish.org.uk/publications/case-studies-insights-and-research/british-council-eaquals-core-inventory-general>